

## 第17回新生ふくしま復興推進本部会議

○日時：平成26年1月31日(水) 9:15-9:40

○場所：特別室（本庁舎2階）

### 【内堀副知事】

ただ今から、新生ふくしま復興推進本部会議を開催します。  
まず、環境創造センターについて、生活環境部長。

### 【生活環境部長】

資料1をご覧ください。

環境創造センターにつきましては、放射性物質により汚染された環境を回復し、県民が将来にわたり安心して暮らせる環境を創造するため、三春町と南相馬市に整備を進めております。

昨年10月には、三春町の本館と南相馬市の施設の概要を公表したところであり、今般、三春町の研究棟と交流棟の概要がまとまりましたので、その内容をご説明します。

表紙をご覧ください。建物は2階建て、本館、研究棟、交流棟を渡り廊下で接続をして、横一線に配置します。

1ページをお開きください。約4万6千㎡の敷地の中央に本館を配置しまして、その西側に研究棟を、東側に交流棟を整備いたします。本館、研究棟、交流棟を合わせた建物の延べ床面積は、1万4,512㎡となります。

2ページをお開きください。研究棟のイメージであります。研究棟は、日本原子力研究開発機構、そして国立環境研究所が入居し、県を含む3者が連携協力しながら、除染技術、放射性物質の環境動態解明、廃棄物・土壌の処理技術など、本県の環境の回復・創造に向けた調査・研究を行います。

3ページをお開きください。こちらが研究棟の平面図であります。1階、2階それぞれ左側の青色が国立環境研究所のエリア、右側の茶色が日本原子力研究開発機構エリアとなります。各階とも来館者が施設見学を行いやすいように、分析室の前に見学者たまりを設けることとします。

4ページをお開きください。この絵は、交流棟のイメージであります。交流棟は、福島の子どもたち、県民が安心して輝く未来を創造するための施設として整備しますが、本館と交流棟合わせて60kWの太陽光パネルを屋上に設置し、再生可能エネルギーの利用と普及啓発を図ります。

5ページをお開きください。交流棟の平面図であります。1階、2階ともに、左側が会議室エリア、右側が展示エリアとなります。会議室エリアは、国際会議にも対応できる200名収容のホールや各種会議室を配置します。展示エリアは、放射線や環境創造の展示室のほか、体験研修室や全球型の映像シアターを配置します。子どもたちのため、キッズコーナーを設けるとともに、どなたでも利用しやすい施設とするため、多目的トイレやエレベーターを複数設けます。

6ページをお開きください。全体の整備スケジュールであります。平成28年度の全

施設開所に向けて整備を進めてまいります。

次に、交流棟に係る展示の考え方について、ご説明いたします。

資料2をご覧ください。1頁と2頁は、昨年10月に公表いたしました展示・運営事業の考え方をコンパクトにまとめたものであります。1頁目ではありますが、交流棟のコンセプトは、子どもたち・県民とともにふくしまの未来を創造する“対話と共創の場”とします。

2ページをお開きください。展示ストーリーを「知る」「体験する」「未来を描く」「考え実践する」とし、「知識」から「意識」を醸成し「実践」へとつなげます。

3ページをお開きください。展示構成概念と展示ゾーニングイメージであります。展示室中央のエントランスから入りまして、原発事故から現在までを知るゾーンの先に、未来を描く、環境創造シアターを配置いたします。そして、「福島モニタリングスクエア」では、福島の今を数値やビジュアルで示し、「放射線ラボ」と「環境創造ラボ」の各テーマの体験コーナーへ誘導する構成とします。

4ページをお開きください。展示全体のイメージであります。原子力に依存しない県づくりなど、福島だからこそ伝えることができる環境回復・環境創造を県民とともに国内外に発信する展示を目指してまいります。今後とも各部局等と連携の上、進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

説明は以上でございます。

#### 【内堀副知事】

教育長から。

#### 【教育長】

震災以降、何らかの形で、本県の子どもたちが、本県の復興に寄与したい。特に再生エネルギー、環境回復、環境創造の面で貢献したいという思いが強くなっております。それから交流館等を、子どもたちの学習の場として、小中高、いずれの学年においても利用させていただきたいと思っています。

また、2年先に計画している浜通りの中高一貫教育においても、ここにもやはりエネルギー関係の学習をメインとしていきたいと思っていますので、ここでも大いに活用させていただきたいと考えております。

#### 【内堀副知事】

知事からお願いします。

#### 【知事】

本県の復興、これはなんと言っても除染、それが一丁目一番地です。そういう中で、環境創造センターに着手する予定であります。ここには本県だけでなく、国立の関係機関、JAEA、IAEAが入り、除染に関する様々な研究・調査を進める、極めて重要な施設であります。

また、子どもたちを対象とした学習、見学を提供しております。放射線、そして

環境に対する理解を深める施設でもあり、この施設が計画通り、しっかり開所でき、そしてこれが除染の加速化を一層進めることにつながるよう、部局はしっかりと連携して取り組んでほしい。

#### 【内堀副知事】

次に、報告事項に入ります。国際研究産業都市構想等について、企画調整部。

#### 【企画調整部政策監】

資料3、4、5について説明させていただきます。資料3をご覧ください。

研究会に先立ちまして、1月14日から19日まで、本県から5名、ヒューストンのテキサスA&M大学、ハンフォードサイトの視察に行っていました。

2ページをお開きください。テキサスA&M大学のディザスターシティ、「災害の街」を視察させていただきました。ディザスターシティでございますが、平成7年度のオクラホマシティ連邦ビル爆破テロ、これは、168名の方が犠牲になり、800名余りの方が負傷された、9.11以前のテロとしてはアメリカ史上最大のテロですが、これを機に、平成9年に大規模災害への対応訓練のために作られ、現在は消防関係者が年間8万人以上が研修を受けている施設です。②でございますが、災害ロボットの第一人者であるマーフィー教授が実際に、災害ロボットのテストフィールドとして活用されています。また、我が国の東京工業大学の研究チームも、ロボットの実験を行っております。当施設の初期投資は約8億円で整備されたということです。

次に、資料右下の②でございます。A&M大学が開発したロボットは、東日本大震災を含め、ロボットが活躍した34の災害のうち、15の災害に投入されています。また、③でございますがディザスターシティのような施設があるだけでは不十分であり、演習をしっかりと行い、操作する人間とロボットとの相互作用、調和が非常に重要であるとのお話がございました。

3ページをお開きください。ハンフォード・サイトについてご説明します。記載のとおり、1943年、昭和18年に、第二次世界大戦中のマンハッタン計画により原子力爆弾を作るために整備された施設です。コロンビア川沿いに8つの原子炉、中央部にプルトニウム精製施設が配置されておりますが、平成元年の冷戦の終結とともに、この地域の役割は終わったということでございます。本県に関係いたしますのは、④でございます。汚染地下水が川に流れ込み、それが地域の方々の飲み水等に影響することを防ぐため、川岸に井戸を5メートル間隔で掘り、化学物質を流し込んでストロンチウム吸着に取り組み、95%数値を減らすことに成功しているということでございます。本朝のNHKのニュースで、この取組がアメリカでは成功していると紹介されておりましたが、この地域のことでございます。

4ページをお開きください。ハンフォード周辺の経済活動等の視察をさせていただきました。トリシティズ(自治体)、トライデック(日本でいうと商工会議所的なNPO)、大西洋北西国立研究所、ワシントン州立大学の4者が一体となって地域経済の多様化ということを議論しているということでございます。⑤でございますが、太陽光発電、電気バス、バイオ燃料などが特に成長しております。⑦でございますが、研究の成果によ

って150以上のベンチャー企業を創出しております。⑧でございますが、ワイン醸造学科において、アメリカではカリフォルニアワインに次ぐトリシティズのワインの醸造など、様々な復興に向けた取組が行われております。

続きまして、資料の4、5についてであります。研究会の内容については、説明は省略させていただきますが、赤羽副大臣の私的懇談会という位置づけでございます。内堀副知事からは、復興が実感できるような大胆なものにしていただきたい。また、2020年のオリンピックを一定の目処として、成果が見えるような形にしていただきたい、さらに地元企業の参入といったことも図れるようにしていただきたい、といったことをお話いただきました。研究会につきましては、6月までに方向性について提言をとりまとめまして、必要な予算については8月の概算要求において反映させていければと考えております。

以上で説明を終わります。

**【内堀副知事】**

企画調整部長。

**【企画調整部長】**

今回の研究会には、廃炉、ロボットなど、様々な論点がありますが、それぞれ各部局連携して論点を整理して、県として提案すべきことはしっかりと提案しながら、本研究会の提言に反映させていきたいと思っております。

**【内堀副知事】**

商工労働部長。

**【商工労働部長】**

特に地元企業の参画の問題がありますし、ロボット開発についても、国の予算も認めていただきましたので、それも活用しながら、災害用ロボット開発への支援などを行い、イノベーションコストの実現につなげていきたいと思っております。

**【内堀副知事】**

3. 1.1 関連行事について、企画調整部。

**【企画調整部長】**

それでは、資料の6についてご説明します。

今回は、新たな取組を加えたいと考えております。まず、上の段の追悼復興祈念式典でございますが、毎年打ち出している知事メッセージにつきましては、県民の皆さんの思いを込めたものにしたいたいということで、新たに起草委員会を設置いたします。来週月曜日に第一回を開催しまして、公募いたしました文面を参考にしながら、知事メッセージを作り上げ、式典で発表したいと思っております。

第2部としまして、上の段右側のとおり、ふくしまコンサート“復興のひびき”を開

催いたします。

それから、資料右下になりますが、キャンドルナイトということで、県内7地方で、3. 1 1並びで展開いたします。

資料下の段左側ですが、こちらも新たに、3. 1 1に先立ちまして、県民シンポジウムを開催したいと考えております。3月9日開催の予定でございます。詳細については資料裏面、福島大学との共催で、基調講演に続き、パネルディスカッションにおきましては、国、県、大学、被災市町村長などにご参加いただき、一体的な議論ができますよう努めてまいりたいと思います。

これらの取組により、県民の皆さんの希望、転機につながるよう、関係部局連携の下、準備を進めていきたいと考えております。

**【内堀副知事】**

以上で本部会議を閉じます。